



第 2 2 号
 発行
 小松同窓会本部
 〒923-8646
 小松市丸内町二ノ丸15
 石川県立小松高等学校内
 同窓会報編集委員会
 TEL・FAX (0761)21-6330
 印刷 マルト印刷工業株式会社



石田新校長、 吉田新同窓会長に聞く

聞き手 宮西新編集委員長

宮西 この春小松高校校長に就任された石田校長と同じく小松同窓会会長に就任された吉田会長にいろいろお伺いしたいと思います。まず就任されてのご感想は。

吉田 100周年が終わって、前会長が体調を崩された時に、僕の後を引き受けてくれないだろうかという依頼を受けましたが、肯定も否定もしないままにいたら、いつのまにかお前がやれ、という事になってしまったんです。誰かが引き継いでいかなくてもはいけないし、特に新しい校舎の槌音も聞こえているこんな時期ですから、学校の要望を石川県にしっかりと届けるという意味でも、やらなければいけないかなあと覚悟を決めました。

石田 青雲の小径から続く天守台の景観に、小松高校の堂々たる風格を感じましたが、その中味は記念館の中にあるという気がしてるんです。その展示物の中に、小松高校の歴史と伝統の重みを感じましたし、先輩の方々の「新しい校長頑張れよ」という励ましの声が聞こえてくるような気がしたんですよ。

宮西 小松高校も創立100周年を終え、現在新校舎を建設中ですが、21世紀の新しいスタートとして、こんな学校にしたい、こんな学校であってほしい、というような要望なり抱負がこさいますらお聞かせ下さい。
吉田 同窓会やOBが学校の運営や

やり方に対して口を挟むのはおこがましい話で、学校の方がこれから生徒たちにどんな期待を持っているか、どんな風に行きたいかと言う事を、OB会がサポートしていける同窓会であれば一番いいんじゃないかと思う。

同窓会から学校に対して、こうして欲しい、ああして欲しい、ということとは差し控えた方がいいでしょう。ただ、新しい世紀になって、学校の先生方にも社会の風というものを感じてもらわなくてはならないし、市民の方々にも学校は勉強を教えているんだ、それでいいんだ、ということではなくて、これからの地域における学校というものに



吉田歳嗣(よしだとしつぐ)

昭和13年寺井町生まれ、寺井中学から小松高校卒業(高校9回)、早稲田大学商学部卒。ヨシダ楽器店経営。寺井町教育委員長、小松青年会議所理事長を歴任、昭和62年能美郡選挙区より県会議員初当選、現在4期目。今年、第5代小松同窓会会長に選任される。趣味はクラシック音楽、スポーツ観戦(特に高校野球)座右の銘は「近者説(近き者悦び)」、「遠者来(遠き者来る)」。孔子の政治に対する考え方で井上靖著、孔子の中の政治に対するテーマから感銘を受け自分の信条としている。

対して、もっと関心をもってもらわなければならぬ。そこいらあたりの仲立ちを同窓会が出来るということが一番いいんじゃないかな。

石田 今、会長さんのおっしゃった通り、今まさに社会は大変革の時代といわれ、この状況は明治維新や戦後の改革に匹敵するともいわれています。従来のやり方では日本そのものも立ち行かなくなるし、経済をはじめ社会の在り方もしかりで、結局、教育も当然そうでなくてはならないし、改革して行く人材を育てる教育を高校の段階でどうするか、大学では何を学び、それをどう生かせるかが問われています。知識の量ではなくて、創造力、応用力が求められているのです。

これまで、小松高校は県内、

国内、世界で活躍する人材を育ててきましたが、これまでと同じやり方では果たしてリーダーが育つのかどうか。IT時代や生命科学が急速に進展している中、我々教職員がその時代をしっかりと見据えて、意識を変えて子供たちを教えることが大切だと思ふ。

小松高校の生徒たちに、これからの変革の時代に対応できる「いきる力」を身につけさせることが大切で、そのためには基礎、基本をしっかりと身に付けさせると共に、生徒一人ひとりの夢を実現させる教育を行なう事だと思ひます。そのためには、教職員の意識改革や保護者、同窓会、地域の皆さんとの連携も不可欠です。永い歴史を誇る小松高校には、この変革に対応できる脈々たる伝統の力があります。この力を受け継ぎ、新しい時代のエネルギーに変えていくことこそが、私達に課せられた命題だと感じています。

吉田 同窓会の皆さんに発行する新聞ですから、少しは自慢してもいいと思うんですが、校長先生は一中、泉丘と非常に輝かしい伝統のある学校を出ておられるのですが、金沢という大きなキャパシティの中で泉丘高がおかれている位置と、この南加賀地区を中心とした中に置かれ

平成13年度小松同窓会会計予算決算書

●収入の部

科目	13年度予算額	12年度決算額	
入会金	3,620,000	3,640,000	卒業生 10,000×人数
繰越金	692,156	979,374	前年度会計より
諸収入	327,844	351,948	預金利息 樹木管理費等
計	4,640,000	4,971,322	

●支出の部

科目	13年度予算額	12年度決算額	
総会費	450,000	450,000	総会・新年会関係経費
卒業記念品	250,000	240,660	卒業生記念品代
名簿作成費	200,000	181,440	前年度卒業生名簿印刷経費

通信事務費	250,000	233,090	事務連絡用郵便切手・ハガキ代
渉外費	400,000	399,911	事務局諸経費・広告代等
パソコン管理費	1,300,000	1,292,644	パソコン消耗品 贈与手当
会報事業費	500,000	498,265	会報印紙代・郵送・編集経費
記念館事業費	140,000	0	記念館展示諸経費
会合行事費	250,000	288,492	常任理事会・幹事会等経費
一般事業費	400,000	496,650	卒業記念樹等管理費
雑費	100,000	98,095	修繕費・慶弔費
予備費	400,000	100,000	
次年度繰越金		692,156	
計	4,640,000	4,971,322	



ている小松高校。小松中学から流れているその脈々たる位置というものは、小松の方が重いものを背負っているように思うんです。そこ等あたりは決して奢りになってはいかんけれども、同窓生も誇りを持たねばいかんし、これから新しく卒業して行く生徒の皆さんも、そういう誇りが持てる教育内容であったり、学校の在り方であったり、同窓会の在り方であったり、そしてそれが地域社会にどれだけ貢献していけるかという問題を、学校そのものが内在して持っている非常に大事なもので、そこ等あたりを学校の先生方にもご理解いただきたいなあと思います。

石田 その通りですね。

石田毅士郎(いしだきしろう)

昭和18年珠洲市生まれ、金沢泉丘高校、金沢大学法文学部卒。珠洲実業高、津幡高、金沢西高、泉丘高で社会科教師。平成元年より県教育委員会学校指導科、平成10年金沢北陵高校教頭、今年度から小松高校校長。

趣味は音楽・映画鑑賞、旅行、スポーツ観戦。卓球は生涯スポーツとして。

嗜好品はコーヒー、和菓子和、寿司、酒少々。

座右の銘は「和して同ぜず」「温故知新」

宮西 では、先生は同窓会に何を望まれますか

石田 今、新校舎が出来るというのもまさに一つの変革ですけども、ただ器だけが変わっても意味がないので、中味のソフトの方が大切。そこで今年度については、学校活性化マイプラン事業を行なうにあたって、この活性化の側面にぜひ同窓会の方々にご支援いただきたいのです。このプランとは、一年生を対象に一流といわれる企業や施設を訪問して何のために学ぶのか、実際の現場を知り話を聴いてくるということです。例えば将来医者を目指す子は県立中央病院とか、官僚を目指す子は県庁に行くとかして、先輩に話を聞いてくる。大学を卒業して、何をを目指すかの目安にしたいと

宮西 本日はお忙しい中を本日にありがとうございます。百周年を終えてまた新しい小松高校の歴史が刻まれます。新任のお二人にはその旗手としてご奮闘下さいますようお願い致します。

思うんですよ。又一流の人の話を聴くこと、こんなことをしたいのです。そのためには是非同窓会の皆様のご協力をぜひお願いいたします。

宮西 会長の方でも何かプランをお持ちだと伺っているんですが

石田 はい、わかりました。

宮西 いろいろな情報が入ってくる時代ですが、同窓会の皆さんにも現実の学校の事情を知って欲しいし、将来的にも同窓会にご協力いただきたいという思いから、10月1日の創立記念日をホームカミングデーとして、例えば初老、還暦の人たちに限っても学校に来て下さいと。記念館を建て、階段教室で講義を聴き、天守台で懇親会をして、新校舎の進捗状況を見て帰ってもらおう。そんな1日にしたいのです。あるいは市民に開放してもいいと思っておりますが、学校に来るわけですから先生方のご協力がなければ出来ないことなので、校長先生にはよくお願いしておきたいと思っております。

小松高校改築工事予定

概要

建物区分	構造	面積	工期
講堂	RC3F	2,449㎡	H12.10~H13.11
特別教室棟	RC3F	3,370㎡	H12.10~H13.11
管理教室棟	RC4F	5,501㎡	H14.10~H15.11
生活学習センター棟	RC3F	2,906㎡	H16.10~H17.11
合 計		14,226㎡	

主な施設内容

普通教室24室・特別教室22室・講堂(兼アリーナ)・図書室1室・コモンスペース・その他管理諸室等

特色

校舎棟の中央に図書室、多目的講義室、視聴覚室兼集会室などを集約して配置し、生徒の交流による人間形成や学校開放に対応できる生活学習センター棟を設置するとともに、環境に配慮しリサイクルタイルの使用、中水利用、太陽光発電の導入などを行う。



建築中の講堂(小松市役所より)

6月29日(金) 今年度金沢支部

総会開催される

前坂雅男

2年毎に開催している小松同窓会金沢支部の平成13年度総会が、6月29日(金)金沢都ホテルを会場にして335名が出席、華やかに開催された。

司会はフリーアナウンサーの上坂典子さん(高31)が務め、東郷宏支部長(中44)の挨拶で始まった。吉田歳嗣同窓会長、石田毅士郎学部長の来賓挨拶の後、総会となり幹事長から金沢支部の現況報告がなされた。今回は金沢地区全同窓生を対象にアンケート調査を実施し、2592名のうち要案内会員は1034人である旨の報告を行なった。

その後、北陸放送の世原忠義氏(高25)が司会を務め、西村徹小松市長(高10)と竹内信孝美川町長(高13)の二人で「首長が考える新世紀」と題して雑談会を催した。

懇親会は初代会長伊東清雄氏(中31)の乾杯で開宴した。会場内には各校の校歌がBGMで流され、飲み放題でもあり久し振りの旧交を温めた。又、各テーブルに使い捨てカメラ配り、自由にスナップ等を撮り合ってもらったことが好評だった。皆さん飲んで、食べて、しゃべって、笑って、木村郁子副支部長の閉会

の言葉で幕を閉じた。なお、次回開催は平成15年6月の予定。

(高校8回)



私の創立記念日

山根靖則

1958(昭33)年10月1日。私の1年(16歳)の時の小松高校創立記念日。この日に、私の大学ノートに書く今の日記が始まりました。それは毎日書くというのではなく、とにかく「ありのままに」思っていることを隠さずに書くこととすることで始まりました。

58歳の現在までの42年間、ノートは105冊になりますが、その内、高校時代に10冊書いています。特

に三年の時は1年間に七冊。二百九十八日。暇さえあれば……こそこそと日記を書いていた気がします。

一九六〇(昭三五)年、高校二年から三年の年の十大ニュースが書いてあります。



- 一、随筆「春分の日」白峰に発表(二月)
- 二、白峰原稿「夕暮れ」を書く(十一月)
- 三、「陰暦」の起筆 (五月)
- 四、本谷隆君と交際 (八月)
- 五、北川英男君と交際 (一月)
- 六、C嬢の訪問 (七月)
- 七、M嬢からの手紙 (七月)
- 八、作文帳を通じて、中谷先生を知る (六月)
- 九、「チャタレイ夫人の恋人」(ロレソック)を耽読 (九月)

十、丁嬢にラブレターを出すも失恋(四月)

この年令ならではの十大ニュースですが、月毎に並べ替えてみると、この一年がよみがえってきます。

高校時代は私にとつて、もの考え方や生き方の土台を作った時だったと、なつかしく思い出しています。

(高校13回)

思い出の文集

松尾桂子

卒業の際にホームの文集を編集した旧友たちが、母校百周年記念の時に偶然顔を合わせて懐かしかった。当然、編集の思い出が話題になったが、その際、私が今も持っているその文集は、かなり見にくくなっている。読みづらくなってしまう。旨を話したところ、家に帰って自分のを探してみようと言ってくれた人がいた。そして後日、そのコピーが送られてきた。もともとガリ版刷りなので読みづらいところもあるにはあるが、私のよりはずっとましだ。

私たちのクラスは実におとなしい生徒ばかりで、ホームルームの時間もシーンとしていた。「自分の思うことをはっきり言う習慣を」と先生(河合先生)はいつも言っていたが無駄だった。ホーム日誌が書かれることになったのはそのためだった。各自が順番に、自分の思いを

書いて先生に渡し、先生が感想を書き、次の人に渡しというふうだ。そんなやり方で一年間書き綴られた日誌であった。それを、卒業を機に一冊の文集にしたのだ。昭和三十四年卒業なので「みそし」という題がつけられた。

読み返してみるとホームルームの雰囲気とは全く違って、一人一人が自分の純真な気持ちを感じるに書き込んでいく。人生・死・神・自己・愛・恋——青年期に誰もが抱く考えや不安など実に自由奔放だ。そういつたひそかな思索のあれこれといった目一杯みんなと共有し合うものになっていたところが、四十余年経った今、はつきりと読み取れる。

その後思い立って、ワープロで復刻版「みそし」を完成させた。

当時、編集委員(ホーム室長)をされていた上田次兵衛さんに送ったところ、ホーム全員の分を製本され、みんなに配られた。みんなからは「二十世紀からの懐かしい贈り物だ」といって大変喜ばれた。

(その一冊をこのほど同窓会館へも寄贈させてもらいました。)

(高校11回)

十二月八日

中出和子

この日は私が経営している服飾専門学校の中行事として、故事

に習ってお針供養をしております。折れ針など使えなくなった針を整理して「コンヤク」に刺し、神社に持って行き淡島大明神に捧げるのです。お饅頭やミカンもお供えし、祝詞を上げていただきます。針は針塚に収めてからは、レストランでおいしいランチを戴き、1日お針様にも休んでもらい楽しく過ごすのです。

昭和十六年十二月八日。未だ男女別学の時代でした。当時、学芸委員であった私は、お針供養の準備のためにダンスに、合唱に、さらにお寿司の手配など東奔西走しておりました。当日の朝、学校に行くと教員室に呼ばれ、お針供養は中止と聞かされ唖然とした。第二次世界大戦勃発のための自粛との事であった。この日のための努力が水泡と消えたことが残念やらくやしいやらでたまらない思いを致しました。

卒業後は洋裁の勉強をしたかったが、この非常時に暢気に東京まで行くとは……とクラスメートから非難を受け、やむなく先生に相談したところ、「貴方は親から折角貰った幸福を捨ててはいけない」と説得され、上京したのであります。

戦争がますますひどくなり、アメリカのB29戦闘機の襲撃を受け、東京都は学徒出陣や学童疎開が始まり、私達の学校も閉鎖され、二年間の予定が一年で帰郷いたしました。昭和二十年の八月終戦と

なり、再度上京し師範科に進学しました。その頃は物資不足で、学校の課題作品は殆ど和服からのリフォームでした。戦後の混乱を防ぐため、東京都への転入は認められず、神奈川県の大磯から通学したものです。

卒業しても家には帰りたくなかったが、私の家の長男が戦病死したためやむなく帰郷、跡取となつて現在に至っております。戦争のために人生が狂い、随分辛い日々が続き忘れることが出来ません。もう二度と戦争はイヤですね。

(市女16回)

不易と流行

栖川 成人

小松高校の新任教頭として赴任して二ヶ月が過ぎた。改築工事が進む校舎を見上げながら、この校舎で高校時代の三年間、教師としての十二年間、そして今、合わせて十五年と二ヶ月の間過ごしたと思うと感慨深いものがある。前庭にはいくつもの碑があるが、よく眺めるのは自分たち高校十八回生の卒業記念である「學而不思則罔、

思而不學則殆」と有名な論語の一節が刻まれた碑と「雪は天から送られた手紙である」と刻まれた中谷宇吉郎博士の碑、そして、勝木保次博士の「誠は天の道也」と刻まれた碑である。どういふ訳か十

年ほど前から朝夕の通勤の折によく眺めるようにしていた。板津中学校教頭として転動になり、しばらく中断していたが、再び眺める事が出来るようになり、何故か嬉しい気がする。

いま、さまざまな改革が叫ばれている中、本校のような伝統校においては、特に、不易流行をしつかり見極めた上で前向きに取り組む事が大切であると思っている。学校社会は閉鎖的、保守的な面が多々ある。

石田毅士郎新校長の「変わらなければ後退である」という本校教職員への訓辞は肝に銘じておきたい。また、社会の変化により、生徒の気質もずいぶんと変化してきているが、将来、社会の中核として活躍する人材育成の基盤づくりは不易なものとして受け止め、大きな目標に向かって主体的に学ぶ力や優秀であるが故に果たさなければならぬ責務や、身につけなければいけないマナーなど創立以来の教育目標「自主自律」「個性の伸長」「高い知性」を常に念頭においた対応が大事だと思っている。

毎朝夕、碑を眺めながら、今、小松高校に求められているものは何かを模索しているが、自分の浅学非才がすくなく身にしみる。

同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

(高校18回)

校庭の桜

春木敏男

確か昭和九年旧制中学の三年の頃でしたか、当時永年在職された島田敬恕校長が定年退職されることになった。その時の送別の集会に島田先生のお別れの挨拶があり、話の中で校庭の桜のことに触れて、「あれは御大典の記念に思いついた植樹であつて、将来は其処が花の名所になる事を期待して、天守台から運動場の周辺に桜の苗木を植えたわけです。」と言われた。

当時、我々は軍事教練や休憩時に運動場周辺の雑木の中に混じる植樹の辺りを行き来したが、何しろ桜の径五センチもあるかないかの「ロロ」した幹から出る枝に、花がちらほら咲く程度であまり見栄えがしなかった。

その頃のパンカフ育ちの私には、それほど風雅な心もなかった上に、遠い将来の自分の事も考える余裕はなかつたようです。ただ覚えているのは、植樹以前に天守台付近に何本かの桜の木があつて、その多くが天狗巢病に侵されているのを現場で博物の先生から教つた事でした。今はどうか、あの頃の天狗巢病の防除対策は枝を切り落として焼くしかなかったようです。

考えてみれば、校庭の樹木の管理に関する予算は全く無かつたのでしよう。事実登校時、私は校舎の入

口近くの樹から毛虫が糸を引いて無数にぶら下がっているのに気づかず枝の下を通り、服のあちこちに虫が沢山付き、驚き走り回つたのを思い出す。

卒業後十数年して、学制は変わり小松高校になつてから、ふと桜の記念樹の事を思い出し、校庭を訪れてみました。内心はどうせ天狗巢病に罹つて大したことはないだろうと高を括つて行きましたが、ところがどうしたことか、校庭の雰囲気はパツと明るく、花で心が洗われる思いでした。成長した記念樹の満開に出会つたのは、この時が初めてで、あまり見事なのでどこかに欠点はないか、近くの木々を一本ずつ確かめてみましたが、その完璧さにはじき返される思いで天守台までを行きつ、戻りつしましたが、公園の花見とは違つて、清しい雰囲気でした。そして、城跡に母校があり、このような校庭のあることを誇らしく思う気分浸るのでした。

その後何年か経つて、再び花見に出かけましたが、時期が悪かつたのか以前のような勢いのある樹の状態ではないのに、がっかりしました。それを問題にしてか、先年、同窓会で二世の記念植樹をしたと聞きましたが、成樹になるには未だ年月がかかると思われます。桜は別としても、一般に植林は自分の代の為のものではなく、子や孫

の代のものであると言われていました。念のために今年の春校庭を訪ねてみましたが、天守台の周辺には根元が太くごつごつした昔の姥桜と、昭和と共に生きてきた記念桜と、先年植えられた稚い二世の平成桜が混生しているのを見て、これから十年足らずして、かつてのような校庭に蘇る景色を想像しました。

天守台の桜の満開の頃は四月十日前後でしょう。その頃は是非立ち寄り、一見されることをお奨めします。

*註1、当時の県立小松中学校は五年制で教諭、職員、生徒は全員男性(生徒約五百名)

*註2、樹木の枝又は葉に病菌が寄生して起きる病害でヒガンザクラ、ソメイヨシノ、サトザクラ等に生じるものを桜の天狗巢病という。病梢は花が付かず葉っぱだけで景観を損なう。

(中学34回)

白楊会関東支部

総会便り

北山寛子

今年度の総会は、春酣の四月十日、三十八回、三十九回生のお骨折りで東京湾に面した「アジュール竹芝」で催されました。

思えば、昭和二十七年に先輩の永田みな子様、万仲八重子様方が、

故郷を離れて暮らす卒業生の親睦を図る会を持つとご計画下さいまして発足いたしました。

第一回には四十余名のご出席でしたが、回を重ねるにつれ出席者も増え、ある年には恩師阿部ふき子先生、東岡静江先生もご出席下さいまして、女学校時代の思い出話に花が咲き、一同若返つた気分ではしゃいだこともありましたが、年経る毎に先生方も年を重ねられ「家の者が心配するから速出はご遠慮申します」と仰せられます。運営の皆さまも出席者が年々減少して行くことに危機感を覚え、五十回という節目の年でもあり、一応会の幕引きをしたらという事になりました。

これで最後の会になるからと最後の幹事役を引き受けられた三十八回、三十九回生の皆様方、総力を挙げて趣向を凝らして下さいました。

白楊会本部でも最後の会の饞として、会長様はじめ小松より多数参加された他、金沢、山口、高槻、静岡よりお顔を見せて下さつて七十余名という近年にない出席者となりました。

静岡の長谷川春江様(三十八回生)は手品の技を披露され、その素人離れの腕前に一同拍手喝采しました。又、各テーブル毎に用意された楽譜より選んで歌うように言われ、壇上に集まつたものカヲオケの曲

に引きずられるような歌を、恥ずかしそうに歌ったりしました。

小松高女という母校がなくなり、立派な市役所が出来ました事は市の発展のためには喜ばしいこととは思いつつも、私どもは一抹の淋しさを詠っていましたところ、小松高校百周年記念行事の一つに加えていただき、市役所の一隅に「石川県立小松高等女学校 ここにありき」の紅御影石の堂々とした碑が校歌も刻まれて建立されました。碑の除幕式に参列させて頂き、市長様、小松同窓会会長様のご祝辞を承り、若き日の学窓生活の数々が蘇り、感慨無量。嬉し涙で胸一杯になりました。

永年にわたり白楊会関東支部を見守り、お力づけ下さいました小松高校同窓会の皆様、白楊会本部の皆様、そして関東支部の運営にご尽力下さいました支部会員の皆様ありがとうございました。

これからははじめをつける為、一先ず会を終わる事になりましたが、名残を惜しむ方々のお声もあり、出席できる方々による人数は少なくても、白楊の思い出を語り会える会を持ってたらと模索中でございます。今後共よろしくお願い申し上げます。

(県女27回)

旧講堂の思い出

三井淑朗

校舎改築が着々進行している。多くの先輩が巣立ち、私自身、中学時代から母校教師とお世話になった木造校舎、続いて防音校舎もいよいよ消滅に寂寥の感がある。しかし、新しい革袋に新進の人材の育つ期待も大きく膨らんでくる。木造時代の思いの中心に、かつての校舎の中央の講堂(現集会室)がある。幾多の厳肅な式典の思い出は、そこに入る時襟を正さずにはおれなかつた荘厳な聖堂であつた。しかし年に一度、孔子会という会があつて、その日だけは晴れて女学生(当時は・ジスと呼んだ)と同室になれるトキメキがあつた。当口、講堂前の青戸室石の廊下に並んだ赤い緒のゲタを横目に、彼女等との入口と反対側から入室、キチンと並んだ長椅子には、中央に一年生、上級ほど離れた窓側、それでもジスの息吹が感じられて青春の血が騒いだ。勿論、孔子様に関する講話内容は全然覚えていないが、大満足の一日だつた。

あの講堂と前の石の廊下の消滅に軋た感無量は私のみではなからう。

先般、関東支部の旧講堂を知る第4回生がつくる「小松会の方々(私の小松高赴任当時の一年生)から、東京へとのお誘いで、珠玉の

よつな八日間を過ごした。

連日、老骨恩師同窓生のために、近辺の筑波山、北鎌倉や東京見物に親身以上のお世話をして頂いた。その間、母校変遷、校舎改築、更には在関東の同窓生の消息を語り、地元ともども優秀な人材が各地で活躍されている実情に、すばらしい感動を新たにすることができた。四回生とは、八年間ぐらゐの差しかないが、講堂に関する思いは、その時代のみでなく感慨となつて私どもの胸に静かに沈潜するだろう。

(中学40回)

訂正とおわび

本誌前号で紹介いたしました春木盛正氏の“おそ松の歌”の中で一部間違いがありました。語句の訂正では意味が伝わりにくい為再度掲載させていただきます。この場で訂正しおわびさせていただきます。

“おそ松”の歌

春木 盛正

まんざくは白山麓ではねぞといふ

炭焼小屋はねぞで結わえき

(ふるさと山路紀行)

うらわれの声も飛び交い賑賑し

天守台下の残党の宴

(旧制中学雲井の会)

大正は明治と昭和の間に

サンドイッチの中味の味よ

(平成の凡骨願有感)

学徒出陣五十周年記念簿に

われ生くるあり有難きかな

(海軍予備学生会員)

大日の縁を承けしせせらぎの

末は手取か梯川か

(南加賀水源流れ旅)

君知るや名水百選何のその

五百峠の湧き水の味

(ルート416秘聞)

政界は離合衆参(集散)数合せ

数は力だ中味は次だ

(再編序曲ながた調「永田町」)

重慶を発し三峽下りつつ

漢詩の里を仙境に訪ふ

(中国長江探訪の旅)

旗日とも呼び親しめる祝祭日

今は傍日か只の休みか

(慢性不掲旗症候群)

今日も往くかんじぎ姿の郵便さん

五百峠の雪の旧る道

(丸山の三ざ貫冬録)

四方寺の百八の鐘鎮まりて

大白山下加賀野明けたり

(晩天氣爽旭旗翻る)

門別の町より訪ね来し朋は

かぶとの里に祖先偲べり

(天領後裔平成の旅)

牛が首峠に集い吟ずれば

大杉三溪和して凜たり

(吟詠仲間山彦道中)

凡骨の耐用年を人間はば

減価償却プラスα

(大正生残り迎春譜)

雪暮れて薪火あかあか大いりり

夜鍋大根ぐつぐつと煮ゆ

(冬の山里才工日記)

(中学34回)

過去12年間の合格状況

公立大学	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	国立大学	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
東京都立大	2	3	2	2	0	2	1	0	0	1	2	0	北海道大	3	4	6	3	6	2	6	9	8	7	4	9
横浜市大	1	1	1	1	4	2	1	0	1	1	0	1	東北大	4	9	11	10	10	8	6	6	7	9	3	4
金沢美工大	2	4	4	2	0	1	2	1	1	3	3	2	筑波大	8	6	0	2	4	6	3	7	3	6	5	3
京都府大	3	2	0	2	1	2	1	0	1	0	0	0	千葉大	6	7	7	9	3	5	9	7	7	4	3	4
大阪市大	2	2	2	3	1	2	3	2	4	1	0	2	東京大	2	2	4	3	7	2	2	3	4	1	2	2
大阪府大	4	3	2	5	2	0	4	1	0	2	0	0	東京外大	0	1	0	2	1	1	0	0	0	2	1	0
神戸市外大	1	1	1	2	1	2	0	1	0	1	1	0	東京工大	2	0	2	2	0	1	2	0	3	5	0	2
その他	12	13	17	18	16	24	19	13	9	12	16	16	お茶水大	0	1	2	1	0	2	2	0	0	2	1	1
公立大合計	27	29	29	35	25	35	31	18	16	21	22	21	一橋大	0	1	1	2	2	1	2	1	1	1	0	0
私立大学	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	横浜国大	7	6	5	3	3	3	3	7	5	4	8	2
早稲田大	17	15	16	21	12	24	12	15	15	17	12	9	新潟大	9	6	6	3	5	5	13	6	14	5	5	11
慶応大	7	10	2	12	14	17	13	13	12	9	11	5	富山大	76	43	34	30	33	23	21	12	16	14	24	23
明治大	20	14	15	12	17	9	6	9	12	15	11	13	富山医大	2	2	1	5	2	3	1	2	3	1	6	2
立教大	8	5	2	2	6	3	1	0	5	8	1	5	金沢大	80	80	70	62	71	47	68	37	61	52	54	53
法政大	22	19	15	19	9	9	6	10	14	14	8	12	福井大	6	10	8	7	3	5	4	9	7	3	6	6
中央大	13	10	14	10	10	7	13	5	13	5	11	10	福井医科大	0	1	1	0	0	1	1	1	3	3	1	3
日本大	20	25	20	22	25	12	17	11	23	16	12	15	信州大	14	8	9	9	12	11	4	1	5	5	6	4
青山学院大	14	6	9	9	4	7	10	4	6	13	12	10	静岡大	8	12	13	7	6	11	5	8	5	4	3	5
東京理科大	15	16	7	18	11	16	11	11	6	6	5	12	名古屋大	4	4	7	7	6	7	4	13	8	5	4	8
専修大	10	10	8	5	5	3	5	2	6	4	3	2	名古屋工大	1	1	3	4	4	4	0	9	3	3	2	5
上智大	5	3	0	4	3	5	0	2	4	1	2	6	滋賀大	0	4	6	0	3	3	1	0	0	0	0	0
同志社大	27	25	23	28	35	24	25	22	28	27	14	16	京都大	7	14	7	6	7	5	5	4	10	6	5	3
立命館大	39	31	27	40	60	36	30	47	44	59	37	65	大阪大	5	7	8	11	7	7	6	10	10	6	11	7
関西学院大	7	6	15	15	20	11	10	7	19	10	10	12	大阪外大	4	3	2	3	2	3	3	1	2	3	3	0
関西大	19	31	21	41	23	26	34	15	32	38	27	30	神戸大	9	4	9	6	13	5	4	7	11	5	7	6
京都産業大	14	17	9	15	14	15	18	12	8	9	9	14	広島大	3	1	2	0	7	1	5	4	6	4	4	1
その他	187	239	355	291	309	293	323	241	78	235	226	252	その他	23	48	56	35	29	47	35	35	25	24	22	36
私立大合計	444	482	558	564	577	517	534	426	325	486	411	488	国立大合計	283	265	280	232	246	219	215	198	227	184	190	200

平成13年3月卒業生の主な進学先

国公立大学						私立大学					
金沢大	50	名古屋大	6	横国大	1	筑波大	3	早稲田大	10	同志社大	4
富山大	19	北海道大	8	広島大	1	富山医大	2	法政大	4	立命館大	11
新潟大	11	東北大	3	東京大	2	信州大	4	中央大	6	慶応大	2
大阪大	6	京都大	3	福井大	4	都留文大	0	明治大	3	関西学院大	3
神戸大	6	千葉大	3	静岡大	5			関西大	5	日本大	6

◎発行 平成14年1月 小松同窓会事務局宛

◎送先 〒923-8646 小松市丸内町二の丸15

◎内容 自由(在学中の思い出、同期の催し、近況報告など)

◎切 平成13年10月31日

◎第23号の原稿募集

同窓会事務局
 学校職員 北本 健
 村井 恭子(高校34回)
 東出 和夫
 村戸 徹
 弥久保悦朗
 北澤 敏美

委員長 宮西 勉夫(高校9回)
 委員 安田 進一郎(中学45回)
 濱野 光代(県女35回)
 福島 房江(市女19回)
 野田 洋子(高校12回)
 杉永 信幸(高校18回)
 池田 幸夫(高校32回)
 山口 和博(高校34回)

同窓会報編集委員

◇同窓会報「天守台」第22号をお届けします。今後とも会員の声や同窓会活動の紹介、学校の現状などPRに努めたいと思いますので、ご支援の程よろしく願います。

